

H30 年度 訪問看護講師人材養成研修会 報告

平成 31 年 2 月 4 日

社会医療法人社団 熊本丸田会 訪問看護ステーションひまわり

江藤 美鈴

日時 平成 30 年 11 月 30 日（金）9：00～16：30

場所 CIVI 研修センター秋葉原

主催 一般社団法人 全国訪問看護事業協会

研修参加者 各県 3 名（行政 1 名 訪問看護師 2 名）

1. 事前課題について

①「自地域における訪問看護の現状を把握し課題を考察する」

本県では小規模訪問看護ステーションが県内の 7 割を占めている。

中山間地域の小規模訪問看護ステーションの人材確保が困難

退院日数の短縮に伴い、医療依存度が高い患者が訪問看護を利用するケースが増加

在宅での療養を希望する県民の割合が 46.3%であるのに対し、実際に在宅で亡くなる割合は 9.3%

②「事前課題①に対して、訪問看護師の普及を量的および質的に図るためにはどのような研修や事業を展開すればよいか考える」

小規模訪問看護ステーションのマネジメント力向上のための研修

管理者、実務者などの階層別の研修

潜在看護師に対する人材確保・育成のための研修

行政との連携の仕方の研修

病院勤務の看護師に対して、訪問看護の魅力を発信する研修

より身近な場所での研修が受講できるよう研修会の県内圏域での実施

県民向けの普及啓発の講演会

地域住民等が行う地域活動の中での訪問看護の PR

③「訪問看護入門プログラムを学習する」

公益財団法人 日本看護協会 「訪問看護入門プログラム」事前学習

2. 研修内容

【総論 1】地域包括ケアシステムと訪問看護

松岡 輝昌先生（更生労働省医政局地域医療計画課在宅医療推進室室長）

- ・地域包括ケアシステムにかかる背景について
- ・地域における医療及び介護に関する基本的な方針について
- ・在宅医療、訪問看護の位置づけ及び現状（基本的なデータ）について

【総論 2】在宅医療・介護における行政と訪問看護の連携の実際

秋山 泉先生（静岡県健康福祉部医療健康局地域医療課課長）

- ・在宅医療・介護における行政の役割
- ・地域における訪問看護の量的・質的確保に関する課題整理と解決について行政と訪問看護が連携する必要性
- ・行政と訪問看護の連携の実際
- ・在宅医療・介護のために地域で行っている会議の種類及び役割
- ・地域における最新状況や情報の収集方法、窓口等
- ・地域における訪問看護、在宅医療に係る事業（地域医療介護総合確保基金等）

【総論 3】訪問看護の対象者の理解

沼田 美幸先生（日本看護協会医療政策部部長）

- ・地域包括ケアシステムにおける訪問看護の対象
- ・医療的ケア児を含む小児の対象について
- ・精神的疾患のある訪問看護の対象について
- ・地域において研修会を開催する時のポイント
- ・制度、社会保障、連携先などの違いについて

【総論 4】学習支援と教育

奥 裕美先生（聖路加国際大学大学院看護学研究科准教授）

- ・人材の育成とは何か、人を教育することの基本的な考え方
- ・教えるということの考え方について
- ・成人学習者に対する動機づけ
- ・能力の開発と GIO、SBO（組織目標、個人目標）について

【各論 1】[テーマ]訪問看護の価値を伝える

佐藤 直子先生（聖路加国際大学大学院看護学研究科助教）

訪問看護の価値や魅力について気づきのロールプレイ

- ・訪問看護のメリット
- ・訪問看護ではどのようなことをするのか
- ・訪問看護が保障するもの
- ・事例を用いて言語化できるようにする

【各論 2】平成 29 年度受講者活動報告

高垣 優子先生（訪問看護ステーションむかいしま所長）

- ・平成 29 年度訪問看護講師人材養成研修会からの学び
- ・研修会の準備から開催までの実際について

【各論 3】グループワークの進め方

山田 雅子（聖路加国際大学大学院看護学研究科教授）

- ・課題の抽出・共有
- ・どの課題に取り組むか
- ・研修会の目標及び目的の設定
- ・対象者を決める
- ・具体的な内容
- ・講師の選定
- ・自分が講師となったらどのような資料を準備するか

【各論 3】[テーマ]自地域における訪問看護師の量的拡大及び質の向上のための研修プログラムの開発

山田 雅子先生（聖路加国際大学大学院看護学研究科教授）

- ・解決したい課題「マネジメント力向上」
- ・研修対象者「5 人未満のステーション」
- ・目標 GIO：ステーションが廃止、休止にならない
SBO：管理者が自ステーションの課題を明らかにできる
- ・方法 ステップ 1 訪問看護事業所評価を使用した研修会開催
ステップ 2 ステップ 1 を実施後、ブロックごとの研修会開催
ステップ 3 見えた課題を自ステーションのスタッフと共有